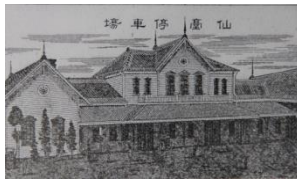


TNC
通信2014
4月号

仙台の“魯迅”を歩く①



弘文学院卒業時の魯迅



明治33年作成の市街図に描かれた仙台駅

概略①周樹人。1881年9月25日紹興生まれ。1902年4月来日し東京・弘文学院入学、04年4月卒業。9月仙台医学専門学校入学、22歳。

今秋、魯迅の仙台留学110周年を迎えます。これを記念し東北大学、県日中友好協会等の市民団体が協力し、各種イベントが企画されています。本紙ではこれまでも魯迅の周辺について紹介してきました。今回は110年前の仙台での魯迅をイメージして歩いてみます。(図版や参考・引用資料は最終回に掲載)

「ところが夕方になると決まって、ひと間の床がドンドンドンと天にも届かんばかりに鳴り響き、しかも部屋中にはほこりが舞っているので、事情通に聞いたところ『あれはダンスの稽古だ』との答えだった。よその土地に行ってみる、というのはどうだろう？ こうして僕は仙台の医学専門学校に行った」(『藤野先生』)。医学？「日本の維新は、大半西洋医学に端を発している。医学を学んで私の父のような病人の苦しみを治してやろう」(『魯迅・藤野先生・仙台』)という志である。仙台？ 1901年に旧制高校の医学部が分離したばかりで、魯迅は清国留学生のいない仙台を選択。また仙台は学府ともいわれ第二高等学校は名高かったようだ。1904年(明治37年)6月1日に提出した「入学願」は7月21日に許可となる。「東北新聞」(9月10日付)には“入学を許可され過日来仙したが下宿を探している”との記事があり九月初めの来仙説が一般的。

「ある駅に着くと、日暮里と書いてある。なぜか、今もこの名前を覚えている。その次は水戸しか覚えていないが」(『藤野先生』)とあるので、おそらく海岸線(現・常磐線)で10時間5分かかけ午後6時40分着と考えられる。当時、仙臺停車場とっており、南町通が正面でにぎやかであった。学校側が迎えにきたと思うが、南町通か北目町通を歩いて、医専もしくは仮宿としての田中リウ宅(片平丁54番地)に第一歩を印したと思われる。不安を抱えながら。

女性委で「おひな祭り」(水戸憲、板垣さん参加)

第24回となる留学生らが参加しての「おひな祭り」が3月2日、「街中サロンにしむら」で。金井委員長の雛祭りのお話、日本文化の紹介や「花は咲く」の合唱、食事、懇談を楽しみました。(I)



5月27日「中国国家京劇院」の公演

民音による梅蘭芳生誕120周年記念の「中国国家京劇院『梅蘭芳』芸術特選」が午後2時と6時半、東京エレクトーンホール宮城で。演目は「霸王別姫」「鳳還巢」の二大傑作。日本語字幕付き。S席6700円、A席5700円。詳細は民音(222)1371まで。

決 議

「尖閣諸島の国有化問題」を契機に日中関係は厳しい状況となり、さらに昨年末の安倍総理のA級戦犯合祀の靖国神社参拝により、両国関係は一層悪化しました。米国はじめアジア各国そしてヨーロッパ各国も日本の外交に懸念を示し、安倍総理の靖国神社参拝については、すでに多くの国々からも、内外の幅広い人々からも、反対や参拝自粛が強く要請されています。

平和と協力の精神で進められているはずの日本外交は今、非常に厳しい環境に置かれています。私たちは、この状況から一日でも早く脱却し、真の国際協力のもと平和外交を推進していかねばならないと考えます。特に中国はじめ近隣諸国との善隣友好の関係は大切なものです。

日中関係の現在置かれている状況を深く憂慮

し、一日も早く友好協力の関係を復活させることを、安倍総理に強く要求します。

また、いわゆる「島問題」については当面「先送り」として、日中両国で戦略的互惠関係の上に立って対処し、平和な海域をまずつくるのが肝要であると考えます。

私たちは、多年来進めてきた中国との民間友好交流が一層推進されるよう努力していきたいと考えます。民間交流の展開によって、両国の人たちが相互に理解し、友好的な雰囲気が高められるようにしていくことが、とりわけ重要だと考えています。

日中平和友好条約の原則と精神を発揚し、一日も早く「島問題」のへお輪的解決が行われるよう両国政府と国民の皆様に訴えます。

2014年1月22日

公益社団法人日中友好協会第10回定例理事会